
小者

ファンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小者

【Nコード】

N9496B

【作者名】

ファンド

【あらすじ】

自分自身の価値を見出せない男の話。暗い青春

高校のときの俺は大学に入れば何か変わると思ってた。大学に入れば自分のやりたいことが

見つかると思ってた……。大学に入ってから一年が過ぎた。だが俺には何も無かった。

この一年、やったことといったら学校へ行って、バイトへ行って帰ってパソコンで2chを見

て、母親の作った飯を食べる。それだけだった。

バイト先には未だに馴染めていない。バイト先で「おつかれさまです」と「おつかれさまでし

た」以外の言葉を発したのはいつだっただろう。自分以外の人たちはみんな楽しそうにしている。

「今日終わったらカラオケ行こうぜ」と他の人たちが話をしているのを聞くと、『今日は自分も

誘われたらどうしよう……。』などと妄想をしてしまう。誘われたことは、無い。

また、ある日「今度の連休、遊びに行かないか？」と学校の友達に誘われたが、「バイトがあっ

てどこにも行けない」と断ってしまった。何で断ったのかは、自分でもわかる。引き止めて欲しい

のだ。引き止めてもらい、自分が必要とされてる、ということを内心喜ぶ。そんな自分のことを自

分自身でも小さい人間だとわかっていた。『こんなことでしか自分自身に価値を見出せないの

か・・・』と。

「このままじゃ駄目だ・・・」とつぶやき、外に出てみた。曇り空。家のすぐ近くに

公園があるのでそこへ行ってみた。空を見上げる。曇り空。「おっし、やってやる！」と意味も無

く空に向かって叫んでみた。二人組みのOLが、可哀想な人を見る目でこちらを見ていた。「漫画の

ようにはいかないよな・・・」そうだろうか・・・。そうだろうな。

（後書き）

初めて書いてみましたが、
こういうの書ける人ってやっぱり凄いな、
と思いました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9496b/>

小者

2010年12月14日21時02分発行